

2008 年

10 月 15 日（水曜日） - 丹後ちりめんの挑戦 -

本日 15 日から 17 日まで、丹後の織物業者 16 社の皆さんが合同で、丹後ファッションウィーク事業※として、東京ビッグサイトで開催される国内最大の出展者数・来場者数を擁する繊維総合見本市「JFW ジャパンクリエーション」に出展し、主要な来場者であるアパレル、デザイナー、流通業者などのバイヤーに対し、丹後産地と織物事業者の高度な技術力と商品力を紹介するとともに、生産連携、新規販路又は用途の開拓など新たな需要開拓に挑戦しています。今回の JFW ジャパンクリエーションには、全体で 236 件の出展者のうち丹後 16 社が最大の占有面積（228 m²）を確保して、小山コーディネートのもとコンセプトゾーンと個別ブースの展開を意気込み高く行っています。

現在、丹後の織物業を巡っては、昭和 50 年代以降不況が長く 30 年以上続き、昨今は大手小売の倒産などで全盛期の十分の一以下の生産レベルに至っていますが、この間、織物業者の皆さんはそれこそ懸命に、経営と経営環境の改善改革にむけて真剣な努力と試行錯誤を重ねてきています。

かの勝海舟翁は何かの折に「首を横や縦に動かすことは知っているがね。何か事が起こったときに、チョイッと首を伸ばして向こうの先を見通すことのできぬ一者が多い」と言って、目前のことにのみ左右される弊に警鐘を鳴らしていたことが伝えられていますが、私たちの丹後の織物業の将来への展望のためまずもって大切なことは、当面の対応をしていくということももちろん大事ですが、同時に、勝翁の言われたように、目前のことに對して首を縦横に動かすばかりでなく、"向こうの先を眺めようと、首をチョイッと伸ばして少し爪先立ってみること"であり、厳しくてもそんな努力を繰り返し続けることであると思います。

ただ、将来の発展が大きく展望されるものであればあるほど、当然簡単にいくものではなく、たたかれてもたおれても、首をあげ続ける忍耐と情熱が求められるものです。「雲上常快晴」といいますが、雲を破るまでには通常遠く、また、孟子翁も「天のまさに大任を降（くず）さんとするや、必ずまずその心志を苦しめ、その筋骨を勞す」とも言われます。そして、真珠の母貝であるアコヤ貝も、中に埋められた核石に苦しみ苦しんで、自らの命の粘液を石に巻き付けて、そうして初めてあの美しい真珠ができるとお聞きします。織物業界として見通しにくい局面でもあろうかと思いますが、今の状況は、近い将来、きっと訪れる織物業界の新しい発展的な境涯を、産地をあげて織り上げていく局面、素晴らしい織物の新境地を産むための産みの苦勞さんをお願いしている局面だと自然に疑いなく感じています。丹後地域の繁栄を永く支えていただいた産業の伝統と先人に改めて深く感謝を捧げながら、必ずいつの日か曙の確かな光明に導かれることを揺るぎなく確信し、何度も踏ん張り踏ん張りきって、何より事業者の皆さんを誠心誠意

に応援し、爪先立ちでチョイトと首を伸ばしつづける努力を産地をあげて続けていきたいと願っています。